



休眠預金を活用した事業です

～中間評価に取り組んで～



一般財団法人大阪府人権協会

前村 静香

Tel 06(6581)8613

Fax 06(6581)8614

Mail maemura@jinken-Osaka.jp

Web <https://www.jinken-osaka.jp>

一般財団法人大阪府人権協会について

団体概要

大阪府内を中心に、被差別・社会的マイノリティを中心とする人権問題の解決に取り組み、差別や排除のない、人権尊重のコミュニティづくりによって、すべての人が尊重される人権尊重の社会を実現することを目的に取り組みを展開。

事業内容

- ①人権啓発事業
- ②人権相談事業
- ③人材養成事業
- ④民間団体や行政、企業等とのネットワーク形成

人権NPO協働助成事業 ～差別や排除のない人権尊重の社会づくり事業～



実施工エリア 大阪府内 実行団体数 10団体

- ①地域愛を向上し差別に負けない強さを育てる（一般財団法人堺市人権協会）
- ②知的障がいのある子どもへの性暴力防止（特定非営利活動法人CAPセンター・JAPAN）
- ③困窮世帯に食の安全と地域の支援ネットワーク構築（認定特定非営利活動法人ふーどばんくOSAKA）
- ④地域人権FM放送局開設（茨木市人権三島地域協議会）
- ⑤子どもとおとのエンパワメント（特定非営利活動法人えんぱわめんと堺）
- ⑥ひきこもりと社会資源との架け橋となる（特定非営利活動法人ウィークタイ）
- ⑦子どもに差別意識を持たない、持たせない、引き継がせないための地域人権共育教材づくり（部落解放同盟平野支部）
- ⑧相談ボランティアの養成（認定特定非営利活動法人国際ビフレンダーズ大阪自殺防止センター）
- ⑨人権教育のためのデジタル博物館（公益財団法人大阪人権博物館）
- ⑩外国にルーツがある家庭支援（特定非営利活動法人ほしざら&ふれあいハウス鳴瀧）

人権NPO協働助成事業 ～差別や排除のない人権尊重の社会づくり事業～



- アウトプット 事業計画の作り方講座／資金計画学習会／社会的インパクト評価学習会／事業説明会・交流会／月次会議／事前評価のサポート／中間報告・交流会(全体)／年間報告・交流会①②③／中間評価に向けた学習会①②／中間評価の個別サポート／中間報告・交流会(グループ別)／企業連携のサポート／行政や企業、団体とのつながりを生む機会の提供／社会発信に向けたサポート／行政や企業、団体とのつながりを継続するためのサポート／資金調達及び広報に向けた全体学習会／事後評価のサポート
- アウトカム「実行団体の取り組みを通じて、つながりの場や人権問題を社会に発信する取り組み、団体や行政、企業等とのネットワークや、被差別・社会的マイノリティ当事者への相談や支援によって、理解支援者が広がり、**被差別・社会的マイノリティ当事者が安心して暮らせる特徴を持った地域や社会を実現する**」

中間評価～実施前～

実行団体の特徴

- ・スタッフ3人～10人以下が中心
- ・専従者がいない(ボランタリー)
- ・助成事業の経験がない
- ・活動することに目一杯

実行団体の評価の状態

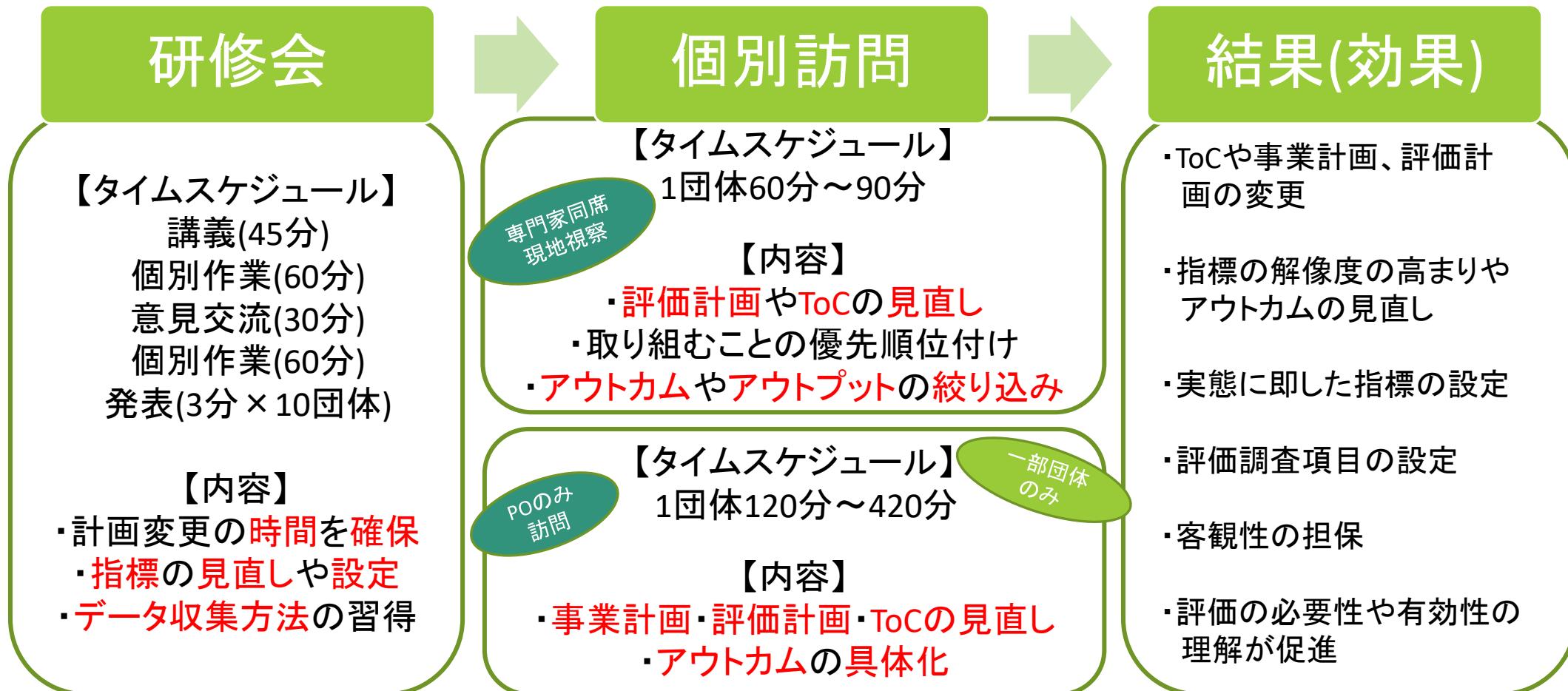
- ・評価計画書の項目不足
- ・評価指標が曖昧
- ・アウトカムが多いまたは壮大
- ・事業計画や評価計画に変更が必要



中間評価のスケジュール

	4	5	6	7	8	9	10	11	12
実行団体				<ul style="list-style-type: none"> * 最新の事業計画・評価計画・ToC提出 * 必須研修会 (前年度2月任意研修会) * 個別訪問対応(7月～9月) 	<ul style="list-style-type: none"> * 評価計画の更新 		<ul style="list-style-type: none"> * 評価計画の更新 		
資金分配団体	<ul style="list-style-type: none"> * 専門家の前年度報告書を確認 * 研修会・中間評価のスケジュールを共有 * 必須研修会案内 * PO研修 	<ul style="list-style-type: none"> * 専門家と委託契約 			<ul style="list-style-type: none"> * 評価計画書の更新依頼 * 点検結果を共有 		<ul style="list-style-type: none"> 中間評価の実施 	<ul style="list-style-type: none"> * 検証結果を共有 	<ul style="list-style-type: none"> * レビュー会

研修会・個別訪問対応



研修会・個別訪問対応の効果

評価計画書(事業開始時・中間評価部分のみ抜粋)

«before»

評価の要素	評価項目	評価小項目	判断方法	判断基準	必要なデータ	情報源	データ収集
事業設計の分析	④事業計画の妥当性	達成したい目標に対して妥当な活動内容が設定されているか？	子ども関連施設との協働	各施設内の関係の合意と協力を得る	定性 全体的に抽象的	子ども関連施設(子どもと子どもに関わる支援者)	関係者へのインタビュー
実施状況の分析	⑤実施状況の適切性	当初設定された目標に対し、課題として想定されていた事項の解消向けた活動の進捗は順調か？	当団体の調査→課題抽出→教材作成→検証の適切な進捗	教材完成1,000冊の活用と検証		当団体スタッフの事業担当者、専門家、子どもに関わる支援者	

研修会・個別訪問対応の効果

評価計画書(中間評価時・中間評価部分の一部抜粋) «after»

評価の要素	評価項目	評価小項目	判断方法	判断基準	必要なデータ	情報源	データ収集
実施状況の分析	⑤実施状況の適切性	支援者が子どもの声を聴けるようになることで、子どもとの信頼関係が深まっているか	支援者が子どもを受容し肯定的に受け止める	子どもの気持ちが「安心」から「信頼」へ変化している	定性	子ども 子どもに関わる 支援者	ワークショップ
	評価項目が充足				定性・定量		
実施状況の分析	⑥知見の共有、活動の改善	講座開催において、コロナ禍における対策はなされているか？	コロナ禍にあっても事業が停滞していない	メンバー間で課題を洗い出し具体的な方法が検討され事業計画に反映している	定量および定性	メンバー間での議論と合意	関係者へのインタビュー
実施状況の分析	⑦組織基盤の強化	組織の財政体制の成長につながっているか	ガイドブック販売促進に取り組んでいる状態数	ガイドブック販売による収益事業が行っている	定量および定性	子ども関連施設や教職員の合意と協力	ワークショップ
アウトカムの分析	⑧アウトカムの達成度	エンパワメンターが、子どもの権利の理解と自己の行動変容がなされたか	子どもの権利の理解と尊重につながる行動を意識した関りができるいるか(チェックリストで自己評価)	自分がエンパワメンターとして子どもに関わる意識と行動がなってきた	定量および定性	子どもに関わる支援者	アンケート調査

評価アドバイザーの存在

目的: 資金分配団体が実行団体へ行う社会的インパクト評価の支援を専門家から受けることにより、アウトカムの達成を促進させる。

助言

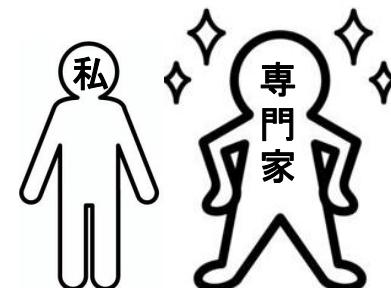
- 評価調査項目・指標設定の見直しに向けた提案や助言
- 評価計画の見直しや評価会議の場での助言
- 資金分配団体が実行団体へ行う評価支援に関する助言

報告

- 事業評価調査に係る実行団体への現地視察
- 資金分配団体が取り溜めた記録の整理
- 資金分配団体の事後評価報告書(確定前)の分析
- 事後評価報告書の作成補助

その他

- 中間評価に向けた研修
- 日々のやり取り(Messenger、Slack、mail)
- OJT



中間評価レビュー会

【参加メンバー】 評価アドバイザー、JANPIA、資金分配団体(2団体)

【時 間】 2時間

【内 容】

- ・中間評価をどう計画して実施したか
- ・相談したいポイント
- ・事後評価実施時期
- ・J-POから所感と相談したいポイント
- ・専門家からの質問＆コメント

・評価の専門的知識の享受
・他の資金分配団体の評価の過程が参考になった
・資金分配団体の評価が実行団体の評価の置き換えにならないよう気づきを得た

レビュー会で質問したこと

- ・多岐に渡る人権テーマを一律にはかるポイント
- ・多数の実行団体を同時に評価する際のポイント

得たヒント①

- ・伴走支援を通じて、実行団体の取り組みの効果をキヤッチし、資金分配団体や実行団体のToCのどの点に当てはまるか見える化する

腑に落ちるよう

導き

背中を押す

得たヒント②

- ・「事業終了時に何ができていると、この事業は成功と言えるのか」を実行団体ごとに言語化する

その他

実行団体の事業進捗の把握

- ・月次会议の場
- ・活動記録の提供
- ・広報物の提供
- ・日々のやり取り(電話、メール)
- ・評価会議

JANPIA POとの進め方

- ・日々のやり取り
- ・ポイント的な関り
- ・的を射たつっこみ
- ・レビュー会前の打合せ、助言



実行団体の中間評価の伴走

- ・実行団体の特性に応じた関り → 評価の理解度はそれぞれ、柔軟な対応が必要
- ・評価計画書にある言葉の具体化 → 抽象的でない具体的な表現に変更
- ・実情に基づいた評価計画に変更 → 壮大過ぎず現実的または少し無理をすれば届くように変更

さいごに

できたこと

- 実行団体の評価に対する苦手意識の軽減
- 評価指標の具体化
- 評価計画書が概ね完成
- 中間評価実施に向けた時間の確保(研修)
- 事後評価に向けたデータの取り溜めの大切さのお伝え
- 評価を取り入れた取り組みの展開

できなかつたこと

- 7月前半に評価計画書を完成形にできなかつた
- 資金分配団体の中間評価の時間確保
- 一部の実行団体が締め切りに間に合わなかつた

中間評価前にしておきたかつたこと

- 想定以上の**早めの行動**
- 評価計画書の見直し
- 取り溜めているデータがアウトプットやアウトカムを測ることができるものであるかの確認

気づいたこと

- 専門家のサポートの重要性
- 中間評価が終わってから評価の理解が進んだ
- 評価って意外と面白い

ご清聴ありがとうございました。